

事業番号 0098

(事業名) 食品健康影響評価技術の研究に必要な経費

(担当部局) 食品安全委員会事務局

－公開プロセスでの評価結果－

＜評価結果＞事業全体の抜本的な改善

＜取りまとめコメント＞

テーマ選定から評価まで同一機関によって行われているのは不透明である。

研究実施の委託契約において、再委託が多く、研究の主任研究者の位置付けがはっきりしない。

また、リスク評価ではなく、リスク管理にどの程度活用されているか不透明。

＜外部有識者の評価＞

イ 廃止	1名
ロ 事業全体の抜本的改善	3名
ハ 事業内容の改善	2名
ニ 現状通り	0名

＜外部有識者のコメント＞

・研究課題の決定、公募研究の採択、研究の中間評価、事後評価を全て1つの機関で行うことの妥当性について疑問を感じる。

・平成25年度のリスク評価要請数及びリスク評価数を見ると、当該研究事業の成果によるリスク評価数は全体のわずか1%にも達しておらず、研究の必要性、研究予算額の妥当性が良く分からない。

・研究が適切な優先順位に基づき決定されているのか不明確。

・研究の採択が実際のリスク評価、リスク管理にどこまで活用されているのか極めて不明確。

・研究の効果が直に活かされているか、明確に示す成果目標、成果実績となっていない。

・結果として研究の採択の妥当性が検証される仕組みになっていないので、かかる仕組みの構築が必要。

・「食品健康影響評価技術研究の流れと活用」のフローチャートにおいて、最も重要度

の高いプロセスは毎年度の課題の決定と考えられるが、その割には時間が割かれてない。

- ・リスク管理官庁からの要請によってリスク評価の方向性を決めた上で、課題の決定に至っていると想定しているが、採択の競争倍率が高い割に、採択されたチームは再委託が極めて多く、主任研究者は単なるとりまとめ役となっていると思われる課題が多いことは本事業の最大の欠点である。一度廃止して、リスク評価へ確実につながるファンディング機能を再構築した方がよいのではないか。

- ・食品安全委員会という行政機関が研究をさせて、その結果をリスク管理に使うという流れが「良く分からない」。

- ・また、成果が有るのか無いのか、これも分からない。ようするに、「わからないことだらけ」。

- ・研究テーマ選定については、リスク管理省庁からの要請に基づいていると理解するが、本来、成果目標は研究結果がリスク管理に活用されたかであるべきである。

- ・研究班のより厳密なコントロールが必要ではないか。

- ・迅速な研究成果が望めないテーマについては、積極的に他の研究費に割り当て、迅速なリスク評価の要請に応えうる体制にすべき。

- ・リスク管理機関との役割分担を再考すべき。